文芸学部の公募制推薦入試では、小論文試験に先立ち、受験生の皆さんに事前に課題文を提示します。公募制推薦入試では、 ある程度時間をかけて文章に向き合い、深く考える力を持った方に入学して欲しいと考えているからです。試験当日は、課題文に関する小論文を作成してもらいます。課題文は以下の通りです。

《課題文1》…村上春樹の短篇小説『沈黙』
《課題文2》…『沈黙』について考察した深津謙一郎の論文「村上春樹『沈黙論』――内なる〈他者〉への想像力――」
※深津謙一郎は、共立女子大学文芸学部の教員で、日本近代文学を専門としています。

・《課題文1》は受験票に同封して送付します。《課題文2》は Web ページに掲載するほか、受験票にも同封して送付します。2つの課題文は、試験に持ち込むことができます。
・小論文のテーマについては当日指示しますが、準備として、以下の点を意識して課題文を熟読しておいてください。

1)《課題文2》は、二種類の「孤独」を区別して考察しているが、それぞれどのような特徴を持っているか。
2)《課題文2》は、青木が大沢自身の「分身」であると述べているが、その根拠は何か。
3)《課題文2》は、物理的な暴力だけでなく、想像上の暴力も含めた「暴力」について考察している。その主旨はどのようなものか。